

パーマネントコースをあな
どるなかれ。一般のウォーキ
ングやオリエンテーリング
競技会では決してなかなか
味わえない冒険も、パーマ
ネントコースの楽しみなのだ。

「ほたか高原川場」コース 群馬県 No.104
JOA 公認 No.533 12km 11 ポスト

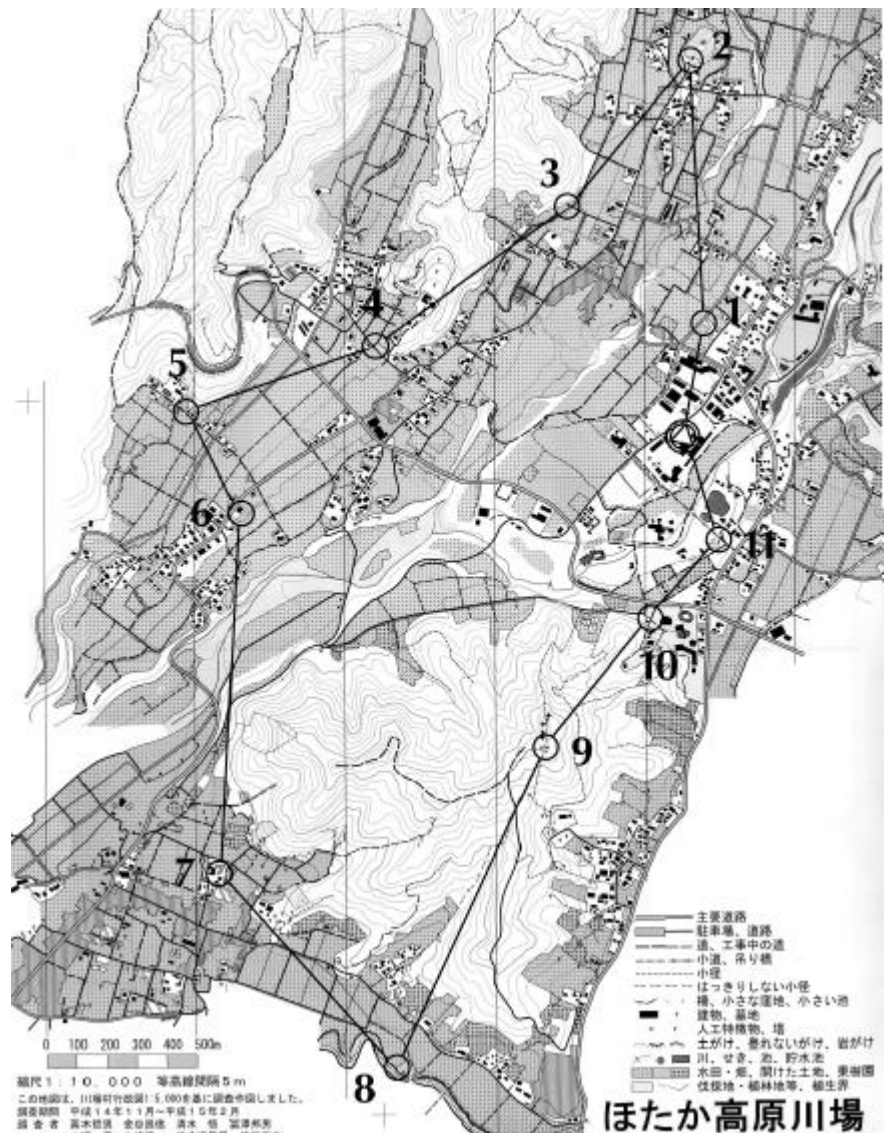
刷新されたコースに期待

コースの更新が活発な群馬県。また
ひとつ、今回新たに「ほたか高原川場」
コースが整備の対象となり、マップ、
コースともに刷新されました。前回の
手直しが平成 4 年のことでしたので、
ほぼ 10 年振りとなります。コースのエ
リアそのものに大きな変更点がありま
せんが、ポストが 1 基増設されたこと
も含め、7 つものポストが従来とは異な
る場所に設置されています。また、ポ
ストも一時期主流となっていた極小型
のものから、堂々とした標準サイズに
復帰しています。やはり、パーマ
ネントコースのポストはこうでなくては！

川場村は群馬県の北東部にあり、北
関東最高峰の武尊山（標高 2,158m）を
北限とし、その南麓に広がる山林が 8
割を占めるといふ自然豊かなところ
です。また、薄根川、桜川、溝又川、田
沢川、田代川という 5 つの清流の集う
ところに集落が開けたことから、「川
場」という地名が生まれたとされてい
ます。パーマネントコースはまさにこ
の集落のある平野に展開され、田代川
を除く 4 つの川を巡ることになります。

おニューの特大マップ

スタート地点は川場村観光開発公社
が運営する「ホテル SL」。敷地内に D51
が展示されていることからこの名前が
付けられています。関越自動車道沼田
インターから 10 分、または上越線「沼
田」駅から川場循環バスに乗ること 30
分、「学校前」で降りると 1 分ほどで到
着します。フロントでマップを請求す
ると、対応してくれた女性は「出来た
ばかりなのですが」と言いながら、平
成 15 年作成のマップを手渡してくれ
ました。1:10,000 の特大マップです。



この日は快晴に恵まれはしたものの、
直前まで降雪があった様子で、一面銀
世界。舗装道路は除雪されてしまっ
たが、里道は畑との境が分からないほど。
虚空蔵山の上り下りが心配されはしま
したが、楽観的な気分のまま歩きはし
めました。心配は現実のものとなるの
ですが....

ホテル SL を出発してから第 3 ポスト
までは、旧コースを踏襲しています。
川場小学校から北に向かうと、六角形
をしたお堂があり、敷地内に第 1 ポス
トが置かれています。お堂の名称を確
認しようと、深い雪に足を取られなが
らも近付いてみましたが、風雪にすっ
かり剥げ落ち、骨折り損に終わりました。

桜川を渡り、第 2 ポストは平地にゴ
コッと突き出たこぶのような愛宕山
の下にある「諏訪武尊」境内。石段を登
ると、左手に直立しています。

第 3 ポストは川場村散策での見所の
ひとつ「遠堂の岩観音」。村指定の重要
文化財にも指定されている磨崖仏で、
南北朝の戦乱の頃に戦没者を弔うため、
高さ 20m ほどの岩に 33 体の観音像と 1
体の弁財天像が刻まれました。

山裾を南下すると、延元元年（1336
年）に建立された臨濟宗建長寺派の「吉
祥寺」に到着。境内にある百花園、入
母屋造りの山門楼上に安置されている
十六羅漢と見所も多く、大型バスでも
対応できる駐車場が用意されています。

第4ポストはその片隅です。

溝又川の対岸に渡ると、ほどなく第5ポストが目にとまります。ここは、450年間涸れることなく水の湧き出している「滝の沢名水公園」。私が訪れた時にも地元の方が数名、ポリタンクを持参して汲み出しているところでした。すぐ隣には「滝の沢茶屋」があり、この名水を使った蕎麦を振舞ってくれます。

「下川場神社」にある第6ポストを過ぎ、主要道路を下って行くと、薄根川を渡る天神橋へと差し掛かります。さすがにシーズンオフとあって、川辺には釣り人の姿はありませんが、ここは清流ならではのヤマメやイワナのメッカだそうです。この先、SLホテルへ通じる道路との分岐の先から東へ向かうと、ひっそりとした神社が現れます。「武尊神社」といい、川場村の観光案内にも登場する名前です。しかし、実は湯原地区にある川場温泉にも「武尊神社」があり、本堂に竜の彫刻があるこちらに、メジャー度合いでは軍配が上がります。第7ポストのある、ここ生品地区の「武尊神社」は人影もなく深閑としていました。

第8ポストはコース最南端を流れる田沢川にある「兜滝」。あずま屋もあり、小公園が整備されています。高さは10mほどあり、丸太の階段を20段下ると滝の下に行くことができるのですが、この日は雪に閉ざされ侵入不可能でした。滝の中段にある岩に水流がぶつかる姿を兜に見立て、この名前が付されました。

ここは八甲田山？

いよいよこのコースのクライマックス、虚空蔵山へ挑みます。そして、想像以上の困難が待ち受けていたのです。山裾の集落から、その奥に広がる水田沿いのルートをとどるのですが、一気に雪深くなり、膝丈までずぶずぶと埋まってしまう。かんじきなど持ち合わせているはずもなく、一歩一歩足を引き抜きながらの前進を余儀なくされました。林に入るとやや楽になったものの、今度は道と林の区別がつかえません。地形だけを手掛かりに登って行くと、ようやく道路のガードレールが見えてきます。ところが安心したのも束の間、この道路、降雪後に通った車は皆無で、更に深々とした雪に支配されています。ゆっくりゆっくり進んでいき、兜滝から約40分を要して虚空蔵山頂にある「虚空蔵堂」へ到達しました。

第9ポストを確認し、一息つきたいところですが、更に容赦のない雪攻めは続きます。「群馬テレビ川場中継所」を過ぎてからの下り坂は雪風呂状態。腰まで埋まる積雪があり、振り返っても足跡ではなく、一本の溝が残されているだけ。雪の上を軽快に横切る野兎を恨めしげに眺め、ジンジンする爪先を堪えながら坂道を下り、ようやく「道の駅川場プラザ」へ脱出。新雪にオレンジ色が鮮やかに映える第10ポストが出迎えてくれました。

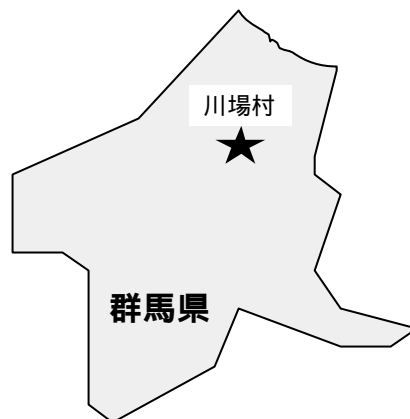
ズボンが乾く間もなく、「ふれあい橋」と名付けられた吊り橋のもとにあるあずま屋の前で、最終ポストを確認。橋から下を覗くと釣り堀があり、薄根川では見られなかった釣り人が大勢集い、糸を垂らして佇んでいました。

橋を渡ると、左手に「女啄木」とも言われた江口きちの句碑、右手には「川場村歴史民俗資料館」があり、200円の入場料で川場村の歴史や文化の証人となる資料が展示されています。SLホテルとは隣接していますので、ゴールしてからゆっくり閲覧することも可能です。

冬はもっぱらスキーと温泉がメインとなる川場村ですが、ぶどうやリンゴの味覚、充実したふるさと体験施設など、四季を通じて楽しむことができるスポットです。

雪の中に健気に立つ道祖神の優しい視線を感じながら、古の人々の暮らしに思いを馳せる一日となりました。

(2003年12月29日踏破)



皆様へ

WOC2005 スポンサー活動 ご協力をお願い

皆様方には、WOC2005(2005年世界オリエンテーリング選手権大会)に向け、大変なご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、WOC実行委員会では、世界から選手・観客をお迎えすべく準備を進めておりますが、そのための資金的なバックとしてのスポンサー獲得が重要な活動となっております。また、スポンサーの獲得は、オリエンテーリングが社会的に受け入れられ、WOCが世界的なスポーツイベントであることのひとつの証明にもなるものです。

スポンサー活動はネットワークの広さが勝負です。そこで、皆様のネットワークのお力をお借りできればと思い、このお願いをさせていただくものです。

一般に、企業の門をいきなりたたいても、とりあってくれる確率は低いものです。そんなとき「コネ」というのは大変重要な意味を持ちます。コネといっても、まずは、企業の方にWOCの話聞いていただける機会を作るだけでも十二分に役立ちます。たとえば、知り合いに、ちょっと広報に話を聞いてくれないか?というようなことでもOKです。

その電話一本が、スポンサー活動の強力な推進力です。

皆様方からのなるべくたくさんのコネ情報をお寄せいただけるようお願いいたします。

連絡先：WOC実行委員会 スポンサー担当：小川

メールアドレス：

kazu_ogawa@mub.biglobe.ne.jp

スポンサー活動の進め方

- ・スポンサー活動においては、ライバル企業が重ならないように、また、提供されるサービスが重ならないように事務局にて調整しながら企業へあたっていきます。
- ・資金だけでなく、大会に必要な資材(飲料、グッズ)、サービス(通訳、運転、レンタル...)などの提供ということもあります。

WOC実行委員会
フット0総責任者 新帯